



臨床教育人間学

2004年 年報第6号

京都大学大学院教育学研究科 臨床教育学講座

臨床教育人間学 第6号 2004年

京都大学大学院教育学研究科臨床教育学講座

目次

[対談]	
対談が語る臨床教育学	皆藤 章 5 中桐 万里子
「覚醒の教育」の可能性	
—「考える葦」(『パンセ』)と宗教教育—	河野 洋子 45
私をめぐる、ひとつの要約としての「自画像」についての試論	
	石崎 達也 59
対話という方法	
—ひとりごとの覚えがき—	渦原 ゆい 79
[研究ノート]	
フランス 1920-30年代の人間／道徳／教育	
—「解放へのイニシエーターとしてのパタイユ」に向けて—	宮崎 康子 91
[レポート]	
総合学習の原野を劈く教師へのレポート	矢野 智司 103
臨床教育学講座 2003 年度授業科目一覧	115
編集後記	123
『臨床教育人間学』執筆要項	124

編集後記

2003年から2004年にかけては、本講座にとって大きな変化のときにあたった。制度からみれば、何と言っても大学の法人化が始まることであろう。それに向けてのさまざまな準備が行われてきた。法人化はとりわけ大きなこととして、今後の本講座にさまざまな影響を与えてくるであろう。創造的な影響であることを切に望みたい。

教官スタッフも大きく変化した。何より、2003年3月をもって、皇紀夫教授が御定年退官されたことは大きかった。それによって、本講座の舵取りは矢野智司教授とわたしが適切なきに適切な語り合いをもつことによって、互いの研究領域をたいせつにしつつ、刺激を受け合いながら、新たな方向性を模索することとなった。「授業科目一覧」をご覧いただければ、その辺りの苦勞の一端をかいま見ることができる。大学院の授業担当に新たに大山泰宏助教授を迎えたことは、院生にとって大きな刺激になったと、わたしなりに手応えを感じている。

まったく個人的には、実質的に講座運営の責を担うことになった矢野教授には、そうとうな苦勞があったことと、身近でそれを知る者のひとりとして、ここにこころより慰勞の気持ちを書いておきたい。そして、今年度の講座運営が滞りなく行われたのは、ひとえに矢野教授のご尽力の賜物であることを明記して、こころより御礼申し上げたい。

また、ほんとうに嬉しいことがあった。2003年12月16日付で、齋藤直子氏を助教授として本講座にお迎えすることができたことである。教育人間学の領域で、今後、本講座を足場として大いに活躍してくださることと確信している。

さて、紀要本号では、臨床教育学の領域で、「対談」という新たなスタイルを試みた論文が掲載された。荒削りではあるが、「何が臨床教育学なのか」というテーマにアプローチしていくひとつの試みを提示したつもりである。手前味噌になるが、内容も非常に興味深いものになっていると思う。

最後になったが、本号の編集にあたっては、中桐万里子氏（博士課程）の協力を得た。末筆ながら、ここに深い謝意を表したい。

(皆藤 章)

臨床教育人間学 第6号

2004年3月31日

発行

京都大学大学院教育学研究科臨床教育学講座

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

Tel 075-753-3036 Fax 075-753-3036

Homepage <http://kyoumu.educ.kyoto-u.ac.jp/clipeda/>

E-mail clipeda@www.educ.kyoto-u.ac.jp

製作 (株) 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38 の 2

Tel 075-791-6125

